

八幡市総合計画審議会 第1部会(第3回) 議事要旨

■日 時：平成29年7月6日(木) 14:30～

■場 所：市役所分庁舎 2階 会議室A

■出席者

【委員】

家村 咲栄 委員、石川 純 委員、沖田 悟傳 委員、奥村 正明 委員、加藤 博史 委員、川原 絵美 委員、木下 重喜 委員、田邊 昭 委員、辻村 修太郎 委員、橋本 行史 委員、藤田 美代子 委員、古市 久子 委員、松下 順英 委員、松本 伍男 委員、八木 英夫 委員

【事務局】

足立 政策推進部長、曾我 政策推進部次長兼政策推進課長、堀川 政策推進課係長、岡田 政策推進課係長、永谷 政策推進課主任

■欠席者

岩成 功 委員、中川 一 委員

■次第

1. 開会
2. 協議・報告事項
 - ・[基本目標6]「安心・安全な『持続可能なまち やわた』」について
 - ・第4次八幡市総合計画との対応について
 - ・審議会委員及び市民懇談会等の意見について
 - ・第5次総合計画策定に向けた市民懇談会の結果概要

■配布資料

- ・第6章 安心・安全な『持続可能なまち やわた』 ※施策体系のまとめ
- ・第6章 安心・安全な『持続可能なまち やわた』(未定稿)
- ・(参考資料1) 第4次八幡市総合計画対応表
- ・(参考資料2) 総合計画審議会委員の意見・市民懇談会等での市民の意見のまとめ
- ・(参考資料3) 第5次総合計画策定に向けた市民懇談会の結果概要

1. 開会

(人事異動等に伴う委員交代のあった2名(第1部会、第2部会各1名)を紹介。)
八幡市社会福祉協議会会長 松本伍男委員(第1部会)
京都銀行八幡中央支店長 井上好光委員(第2部会)

加藤部会長(以下、「部会長」):暑い日が続いている。これからいよいよ本格的な暑さになってまいるので、健康にご留意いただきたい。前回、非常に熱心にご議論いただき、貴重なご意見を賜り、事務局ではいただいたご意見を一生懸命まとめているところである。本日は、環境及び行政の統治、行政の運営を中心にご議論いただきたい。1つ1つの分野をしっかりと固めていくことによって、八幡市の将来ビジョンにつながり、そこからフィードバックしてまた1つ1つの分野を豊かにしていけるのではないかと思う。発達障害の分野でピープルファースト、という言葉がある。まず人として、どうあるかということ。アメリカファースト、都民ファーストという言葉も最近あるが、八幡市はぜひ命ファースト、命が輝くやわたということをやっていたらと思う。本日もよろしくご意見申し上げる。

2. 協議・報告事項

部会長 : まず、第6章「安心・安全な『持続可能なまち やわた』」について事務局からの資料の説明をお願いしたい。

事務局 : (資料説明(第1節・第2節))

部会長 : ご質問・ご意見をどうぞ。

委員 : 刑法犯認知件数が369万件というのは間違いではないか。

事務局 : 誤って国の数字を記載しており、前後の文章と対応していないので、修正を行う。

委員 : 交通安全の強化は重要。強化に加えて、何か起こってからでは遅いので、地域から指摘があった場合の市の対応のスピードアップも重要なのではないか。

部会長 : 事務局で検討願う。

委員 : 主な取組と方向性に「不法投棄の監視と対策の強化」とあるが、不法投棄の件数を指標に挙げることはできないか。

部会長 : 入れたら良いと思う。第1節の環境に関しては、「ポイ捨てをしない」など「しない」方向が多いが、する方向の取組は何かないのか。花をたくさん植えたり植樹をしたりといった、美しい八幡市づくりに向けた取組が何かないか。京都市内の古い団地群で会議があった際、高校生の意見で、「無機質な団地の中にきれいな芝生とおしゃれな建物があれば街の誇りになる」というものがあり、非

常に刺激になったことがある。八幡市は元々緑が豊かでありがたいところではあるが、少しプラスの表現も必要なのではないか。

委員 : 私は環境市民ネットというところで、美しい八幡市づくりの活動をしているのだが、そこでは花の苗を配るという活動を自治会や老人会に無料でしたりもしている。活動はあるものの、なかなか広がっていないところなのかもしれない。清掃活動については、市全体で年に2回ごみゼロ活動をしている。駅前とさくら公園周辺に、中学生や高校生を含めかなりたくさんの方が参加しており、随分きれいになってきた。ただ、交差点にはまだまだ空き缶などが散乱している。さくら公園などでは街路樹がきれいだったりするが、全体的には花が少ない。駅前や市役所などの「顔」になる場所にもっと花があればと思う。環境保全課でデータは取っていると思うので、そういった活動に市民がどれだけ参加しているかということも前向きな指標として良いのではないか。

委員 : 「持続可能」という表現が気になる。「持続可能」というのは、ずっと続けられるという意味なのか。「市がずっと続くのは当たり前」という感覚があるので、今より「豊かな」「よりよい」にしたほうが良いのではないか。市民はもっと次元の高いところで生活をしているという意識があると思う。

委員 : NPO 法人で八幡たけくらぶという組織があり、私はそこに加入して色々な運動をしている。年々会員が増加している。この NPO の目的は、荒れた里山・荒れた竹林を整備し、観光竹林にするといったことである。NPO 法人そのものは積極的に活動しているが、モノ・ヒトともに潤沢とは言えない。こういった力をもっとまちづくりの一端にでも生かせたらと思う。八幡宮の展望のところでも、もみじやさくらの木を植樹するなど、八幡のイメージアップにつながる取組もしている。

部会長 : 竹は八幡の象徴。そういった力をもっと環境・美化の点で生かせると良い。防災・防犯の見守り活動などはこの章にも入るかと思う。見守り活動は、普段もそうだが、災害時に生きる。見守り活動がどのくらい広がっているかはものさしになるかもしれない。

委員 : 私の地区では見守り隊を初めて発足させた。現状では、見守られる側が 20 数人、見守る側が 40 数人で、安否確認を含め月に 1 回お宅にうかがっている。高齢の一人暮らしの方が増えているため、見守りが必要な人は、潜在的にはもっとたくさんいると思う。

部会長 : 他に、第 1 節、第 2 節に関してご意見はないか。

委員 : 現状と課題に「防犯カメラの設置が求められている」とあり、防犯カメラの整備を方向性として出しているが、自治会からも防犯カメラの設置を要望したばかりである。どれくらい予算が確保されるのか。

事務局 : かなり設置が進んでいる事業である。まだ課題もあるため記載しているといった状況である。

- 委員 : 防犯カメラを設置することで、犯罪の抑止・防止につながる。個人情報等プライバシーの問題もあり地域の方の同意が必要であるとは思いますが、話をしに行つて「絶対だめだ」というような人はいなかった。「ぜひ設置してほしい」という人は何人かいた。ぜひ積極的に進めてほしい。
- 部会長 : 色々な地域でそういった動きは強まっている。監視社会とも言われるが、地域で管理すればそういった問題もクリアされると思う。第1節、第2節はひとまずここまでにしておく。続いて第3節、第4節の資料の説明を事務局からお願いしたい。
- 事務局 : (資料説明 (第3節・第4節))
- 部会長 : 何かご意見はないか。
- 委員 : 男山地域再生基本計画、男山地域連携協定の取組に関するコーディネーターを務めているが、男山団地は全国的にみても大きな団地。大部分が賃貸なので、入れ替わりが多くコミュニティの形成が難しいのかと思っていた。一方で、入れ替わるということには良い面もかなりあると思った。子どもの頃に男山団地で育つて、また帰ってくる方もいる。他地域で男山の話をする、「昔住んでいたことがある」という方にもかなり会う。八幡市にとっては良いポイントなのではないか。住み替わるということ的前提にして考えると、八幡市は非常に住みやすく、団地内で住み替えされている方もいる。京都や大阪へのアクセスも良い。
- 部会長 : 住んでもらうための魅力は何か。
- 委員 : 子育て環境に恵まれている。京都や大阪の街中では子どもだけで遊ばせられなかったが、ここであれば、車が入ってこない団地内の公園で安心して遊ばせられる、ということは良く聞く。建物自体は45年前に建っているが、基盤がある。屋外環境も豊かで、それを生かしていく取組ができれば、若い世代がどんどん入ってくるのではないかと。おそらく数字に出ているとは思いますが。
- 委員 : URの古い建物は、面積が狭かったり設備が老朽化していたりグレードが劣ったりするものの中にはあるが、屋外空間はかなり豊かである。子どもが育つには、草むらがあつて虫がいて、とても良いと思う。コミュニティ活動が熱心な団地は多いが、大学と連携して取組をしている男山団地は先進的・モデル的な事例。それが八幡市駅前を含めた市全体に広がると良いのではないかと。
- 部会長 : 路地がある、虫がいる、そういったエコロジカルな環境は魅力的。
- 委員 : 最近では団地個々の魅力を発信していて、住む方も増えてきていると思う。
- 委員 : 住宅地は住むことが前提で、男山はベッドタウンというイメージだったが、これからはコミュニティビジネスというか、自分が楽しみながら、自分が関われる範囲の中でお金が少し稼げるような環境があつても良いのではないかと。生活

都市という言葉が使われているが、ただ寝に帰るのではなく、暮らしを楽しむような都市像を目指せたらいいと思う。

部会長 : 第6章のタイトルも含めて変更をお願いしたい。コミュニティビジネスについては、どこかに盛り込めるように検討を。

委員 : お金を稼ぐだけでなく、「学ぶ」という視点もあると良い。誰でも講座を開けるようにするなどはどうか。たとえば小学生なら、「お母さんに対して思っていること —『早くしなさい』が気に入らんのか— 」という講演をしてもらいたい。講座を開くのは、教える方も楽しいと思う。市には、そのための場所の提供と発信をお願いしたい。

委員 : 新しいまちづくりの1つの方向として、コンパクトシティと言われてきている。八幡市ではこれまでどんどん拡散が続いてきて、最近是一部小学校が統合されたりしているが、それぞれの施設がそれぞれの機能ごとに分かれて存在してきて、たとえば、図書館は本を貸すだけであった。これからは、多くの世代が交流したり、地域関係なく集まったりするような雰囲気の方が大事ではないか。

部会長 : 空き家活動も含めて、多世代交流も取り上げていただきたい。男女共同参画からの視点では、市役所職員のうち女性の割合なども指標となるのではないか。

委員 : 公務員は女性が多いのではないか。

部会長 : 男女共同参画の視点に加え、行政サービスをワンストップで受け付けるということを目指してほしい。あらゆる行政サービスは申請によって始まるが、申請のハードルを越えられない人もいる。必要な人にはこちらから出向いていく、アウトリーチ的な機能（発見・訪問・御用聞き）の充実も必要ではないか。ワンストップと関連して、部署間の横の連携も第4節に入れ込んでもらいたい。

委員 : 男女共同参画に関して、京都府で30年以上開かれている「女性の船」という講座があり、かなり高度な講座だが、八幡市からも毎年数名受講されている。その講座を受けた人が活動する団体があるのだが、八幡市役所から受講された方の、団体への参加があまりない。行政の仕事として受講されるので、市民が参加する意識とは違うと思うが、せっかく高度な講座を受けた方がそれを活かせるような仕組み作りを考えてもらいたい。

部会長 : ここで休憩に入る。

(休憩)

部会長 : 再開する。では参考資料についての説明を事務局からお願いしたい。

事務局 : (資料説明 (参考資料))

部会長 : ご意見をお願いしたい。市民懇談会の意見は貴重。多世代交流などは、本日の

委員の意見にもつながると思う。

前回、前々回に扱った分野に関しても意見をいただければ。

委員 : 第6章に関する市民アンケートでの意見として、「犯罪が発生している」というものが他の意見と比べて多くある。先程の資料では、刑法犯認知件数は減っているということだったが、実際はどうなのか。犯罪があるから市外に転出される方がいるという課題も記載されている。

部会長 : 体感と実感とズレがあるということだろうか。

委員 : 犯罪件数自体は今年も去年より減っている。この状態が続くように努力している。ただ、特殊詐欺など、新しいタイプの犯罪は起きている。

部会長 : 割れ窓理論というものがあって、環境に手をかけられているところにはあまり犯罪が起こらない。

委員 : そのとおりで、きれいに整備されているところは、犯罪者は狙わない。環境整備は大事。

委員 : 交通安全対策について、「子どもを犯罪から絶対守る」という決意がどこかに表れていると良い。見守りが課題と出ているが、登下校の時間帯は、人の目をたくさん作ることが大切。

部会長 : 全体を通してでも、振り返ってでも何かご意見はないか。

会長 : 「共に支える」ということで、コミュニティ活動が重要になるが、コミュニティ活動はどここの章に入ることになるか。

事務局 : 第1章の共生のまちづくり 第2節協働による地域づくり①コミュニティ活動による地域づくりの推進 に入る。

会長 : どこまでの記述をされるのか。

事務局 : 現時点では、コミュニティ活動の推進や地域の助け合い体制づくりを検討している。

会長 : 体制づくりを一步でも二歩でも踏み込んで記述できると良い。

委員 : 市民になって44～45年経ち、退職してからも10年近く経つが、体が動くうちは何か人に役に立ちたいと小さな仕事をしている。男山第三中学校区の学校支援地域本部の一員で、午前中は学校の草取りや植木の剪定などをしている。グラウンド・フェンス周りはかなりきれいになった。学校の環境整備は大きな課題。庶務員の方は各学校に1人しかいない。昔は2人はいらして、草取りや剪定など手が回っていた。今、1人では到底手が回らない。この梅雨の時期、市内の小学校は雑草だらけである。庶務員の方は業務範囲ではあるが、校内の修繕や清掃等があり忙しい。現業職員を減らして経費節減を図ることに理解はするのだが、その結果、学校の環境整備の水準はかなり落ちている。登下校の見守り活動については、見守っている人も高齢化してきていることが課題。今後は増えないと思う。雨が降っても風が吹いても決まった時間に必ずやる必要がある。様々なボランティアの中でもかなり大変な部類であり、色々やって

いる私もこれだけではできず、やっていない。見守ってもらっている子どもの保護者・PTA が忙しく関係が広がらない、という課題もある。また、八幡市が管理する公園は、ペット禁止となっている。一方、枚方市はペットを禁止にしていない。フンの始末の問題等があるのだろうが「禁止」で終わりにして良いのか。犬の散歩をさせながらのコミュニケーションづくりに役立つと思うので、もう少し考えてほしい。小さな公園は草も伸び放題で、何とかならないかといつも思っている。

部会長 : ボランティアへの呼びかけ、誘い出しは大事。また、ボランティア活動を「見える化」するなど、市民が評価することも必要。公園への関わりについてもご指摘いただいた。

委員 : 子どもの見守りはいつも同じ方がされている。自治会同士が団結してもっとうまく機能すれば良い。高齢者の方がやってくださっているが、大変だろうと思う。

委員 : 学校も、教員の働き方改革に取り組まなければ、とプロジェクトチームを作っている。市役所もいろいろと取り組まれていると思うが、何か効果が高いものがあればアイデアをいただきたい。

委員 : 情報発信が大事。広報紙は全戸に配布される有益な情報源だが、その編集の仕方やサイズには疑問を持っている。A3、A4 でないと保管しにくいのではないのか。また、同じページに税金の話から環境の話まで混在しており、「ここは保管しておこう」、「ここだけは見よう」などしにくくなっている。ホームページをわざわざ見に行く方も少ないだろうから、これをもっとうまく伝達方法として充実させてほしい。私の田舎の広報紙は、A4 で保管しやすいサイズ、1 年分綴じられるようなレイアウトで、読みやすく工夫されている。

「環境」という言葉については、教育環境であったり生活環境であったりと様々な使い方があり、総合計画の中では何を重視して取り上げるのかということについて、環境所管課ともよく話し合っていて考えてほしい。市役所に努力していただくのはもちろんだが、市全体としてどういった効果があるか、考えてほしい。八幡ならではの教育・お茶の話では、もっと石清水八幡宮、飛行神社、松花堂庭園等に行ってほしいと思っている。幼・保・小・中学校のカリキュラムに組み込んでほしい。

部会長 : 時間になってしまったので、他にあれば、ご意見シートに記入して事務局にお寄せいただきたい。事務局にお返すする。

事務局 : これまで部会 3 回及び第 2 部会でもご意見いただいている。ご提案したものについては、未定稿で精査ができていない部分があるので、さらなるご意見を踏まえて庁内で再度、検討・精査する。課題となっている総合計画の指針や将来都市像を次回の審議会でご提示できるようにしていきたい。今後のスケジュールを含め、いったん持ち帰って調整した上で、改めてご提示させていただいた

い。

部会長 : 第3回目の総合計画審議会第1部会を終了する。長時間にわたりご意見をいただきありがとうございました。

以上